

地域学校協働活動事業訪問

福島市訪問

訪問日：令和2年12月15日（火）14：00～15：30

場 所：福島市立大久保小学校

内 容：第6学年 社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」

飯野学習センターでは、学校の教育課程編成時期に事前調査を依頼し、各校のニーズを把握してボランティアをコーディネートしています。大久保小学校では、地元の歴史に詳しい古関善一郎さんに来ていただき、第6学年社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」の授業実践が行われました。

古関さんは、児童一人一人に丁寧に作り込まれた自作の年表や資料を配付しました。その資料をもとに「父親が兵隊に参加した後の家庭」「学校生活」「学童疎開」「戦中戦後の教育」「日本国憲法」などについて、丁寧に説明していました。「戦中戦後の教育」についての説明では、当時の教科書を持参して、児童に自由に触れさせながら戦中戦後の学習内容の変化について説明していました。

児童は、古関さんの体験談を聞いたり、自作資料を読んだりすることで、教科書や資料集だけでは調べることができない当時の大久保地区の様子について学習することができました。



【児童から】

- 当時の大久保小学校が、なぜ児童数が一番多かったのかわかりませんでした。古関さんの学童疎開の話聞いて納得しました。
- 教科書や資料集にのっている墨塗りの教科書を実際に見ることができて、大変勉強になりました。
- 自分たちで戦争について調べたけれど、古関さんの話を聞いて、戦争についてもっと詳しく知ることができました。



【ボランティアの方から】

地域づくりについて、いつも考えてきました。目の前の子どもたちがこれからの大久保地区を支えていってくれるように願いながら、地域のことについて話をしています。

【先生から】

子どもたちが教科書や資料などで調べていく中で、わからないことがたくさん出てきました。事前に子どもたちの質問をまとめたものを古関さんに届けておいてから話をさせていただきました。戦争を経験した方からしか聞くことができない貴重な話を聞くことができました。

毎年、戦争の学習については、ボランティアをお願いしています。当時のことを知る方がだんだん少なくなってきているので大切にしていきたいです。



訪問を通して

大久保小学校では、今回の学習に向けて、古関さんと綿密に連絡を取り合ったそうです。授業では、課題解決に役立つ「生きた」資料と平和への思いが込められた講話により、深く充実した学びが実現しました。学校と地域の連携をより充実したものにするためには、学習のねらいとボランティアの思いを双方が共有していくことが何より大切です。このような充実した活動が、学校と地域の強固なパートナーシップの構築につながっていくと思いました。